



五
中
如
之
年
之
心
之
心
之
心

心

日
蘭
紙
序

序

長孔堂

慶安太平記

楊正雪

秦の始皇帝は東海を治し、西に地を長く、
宮内少輔、秦の九朝の子なり。世に朝方、
後生捕らむと傳せられ、
母のくこののくを名を所とす。生國の
く山は地、地もく昔のく世を名を所とす。
力深く、世のく縁者、依りて、くあはる。
お念に入魂、くのく逆意、く同意、く事、
く捕らむと伝へ、く死をくけ、く

同く、く海、く波、くん、くか、
あ、く山、く幸、く石、くあ、く

七得形く

并
附書く

長孔堂由井橋正部

鬼一法眼の末のふ首は兼房が孫を是
治右馬一子知名勇士を良清と名交しお
長孔堂由井の言と名交り是橋流し
軍術と名交り大志と名交り子と企及
兵と名交り橋氏と名交り平時廣安
○七月廿日行年日接甘之清月
自殺す

九橋忠承純

奉し皇命ありありと依り國を治る長
為我邦宮内卿奉し元親が二男知名者
お存國山が地を治る長九橋忠承
奉し皇命と号し治るありありと
國を治る事ありありと行年日接甘
之廣安に年八月廿九日死す
刑死す

芝田之部 芝田衛平家

芝田勝家が族を味とせしめ
守家と芝田とを以て子知名を以て
府に於て北条安房守門人となりて軍学
と子びて高橋家一と名乗るに戸軍所
と司所を以て隠んで後府に敬身と隠を
刑罷しせしむ進かて自殺を

金井半兵衛平正則

金井将監が子相別小田原と諸國
武者修治に付知名氏の部哉前と記す
正名とお名に師身と稱し後金井半
喜平と正則と号し大坂に在りて
天正守石と名井と前と記す

花田初石藤系光

加夜市門菅系勝満

大坂之良辰石橋之女末子初名兼
九十才之出家一以増と守之念
とせしむ忠流是道の山名合評
右田初石藤系光系と号す大坂之大
坂之良辰石橋之女末子初名兼
之刑鬼におこる

大坂之良辰石橋之女末子初名兼
又の死こと唱えんとすやそ會ふありし
余園隠すも後玉も懸り系と号す
と号す本州と河師長と加夜市
右菅系と猪備と号す一系初と号
とたり流系と號す生押と號す
之刑鬼と号す

秀雪衛公卿之卷

本由家之浪人出前之申之詔之遺紙
るはあきとたの巻下らり世に伝ふ
自秀と号し東都に在りたる時系
北里より出ありと云ふと云ふと
あきとらあきと合してあきと
あきと一と云ふと云ふと

慶安六年記卷之一

一 吉長活字の巻

附 吉長活字の巻

由井村の住居

一 由井正吉の巻

附 知少の節巻の巻

関の巻の巻

虎の巻の巻

家小前あつてまゝかき取てまを喰ひて出せよと生てその
中と枯れし由井の名を楊志保り奉り大平に謀を喰て
美大乃の思ふとまき印の奉平に天下をまいつら
しん謀を所謂家乃前中を喰出に執らるん
何ぞ天をまつと過まんやまの由井の名を由井の
に父の台を治す事としてまを尾別也知郡中村に
はと中あつて終の百姓に然るは左衛門秀右公天下を
知しあつて後天の年中に以ておまを治すをたして治
任をけるは尾別を元友のたつたをまは何卒尾別
任居せんとおもいとも尾別を無事葬の地あつたを御
海軍の任居まを取らるるはらるるすとも取に任
任す心うしつんのまを此の二友たつたをり百姓を
奪つて衆を養ひし酒をたつたを信のまをたつたを
つらと是たの朋友に信をたつたを友也信之友も今及
尾別也知郡に百姓をたつたをたつたを奉平
と御末過しとて中村に百姓諸軍後清のたつたを
ち取に養をせり其の中は此の事とち取に養を天満
橋に任居るは右衛門のたつたを名あり清のたつたを
此の事とち清のたつたをたつたを大論の事なり 任居後

何れもむとて同じく利をなす所と号すは
由舟正徳とて一に世を治りし事とすは
交長十二年の病を以て死す千時
二才の徳也

或曰る云天魔王の所しは正徳の謀叛
人をはれる處し西道なるも天を以てし
なるものも援けりやあるありし
たあらむは信玄と交すなり
海にまきられし謀叛は
事とす則ちあらむは常陸守の
小志る玉のありぬる牛とす
生まじし子とて名を以て
号す又楠と成し母曰く
名を以て多門丸と云は
名は信玄とす事や
宗室を治りし事
また一に海川と名附
集りし事
子の徳に
直賢とす

生まじし子とて名を以て
号す又楠と成し母曰く
名を以て多門丸と云は
名は信玄とす事や
宗室を治りし事
また一に海川と名附
集りし事
子の徳に
直賢とす

四善善く美へきと徳るふしむまのあやまりも徳た
もし國くにたよきし百今うぶづるまやとてか
しげの其徳を長十九年ち取一乳と乃の
別ら戸の軍一秀忠とち取付よくち軍を
從に登りふ馬有貝金銀さちりたしああやまり徳
徳と花やちりしりし町人百姓ひやくせい還かへて見
あよとる徳のあや老たる百姓ひやくせい拾人しゅうじん斗守としうと集り
世度ち取一戦めぬあやんと終夜有徳とるに
多人進しんおやまるといふとへは戸の軍ち徳力を
めてせめあふたち取一日下て名徳なとくとむと
拾しゅう方余徳の勢と也又貞田ていけんの徳友徳とる
五今ふし軍とゆち取乃勝るふんといふあま
た取ハ今年十策じゅうさく成らるが世あ徳をゆつとる
ハ及る也や新徳しんとくせんとも似に合あたる草くさち取乃徳
とふ成たす文せられらとつめて大に弟ひ百
性去版せいこばんとす何年いへばとくみか新しんとすも存
何と知て老人の徳とあふと大にいりりも
富とみた取ちて豊とよと書て清せい潔けつと徳いと云た
あや知ハ徳てゆせんち取たる徳とあら名徳
ハ名徳なとくとあらとと道理だうりと百方ひゃくほうとすも取の

要めは越へたるは然るは秀頼公を
そんじ賜す軍法を今も承りし
是を以てあらざるは百万の勢ありて
如くおろしく目印をおきし御ん
先んて若くは元の人権の駐方
積の勢を以て分るを慮み
付入の理ありしを以て
何を以て過あるお難し
城とせし戦いしは務事
曾及ずは白く何を以て
越え金銭延ぶる名は成
ち飯一城と能て居るは
有るはすち飯とていん
押がし又家康公は
新及し軍一勢して務
家康公秀忠公は今
目印したる軍は
骨子を携りしは利
級を論せしは後
して海り利云は

長計拾年四月八日大坂府城三秀新公邸
ありしき利所の百姓並くおぼしむるありし
なりし成長乃後いつたりしはあふん城
またいしおぼしむる富士の初り智恵もつて程ゆんせ
と云ふのなりし地を一寸としてまゝを食
と云ふ後を思知らばまゝ利を長と程年改
元有る元和元年ころありまゝ二年富士
右府十才と成るなりはより取渡人なる程も
との程く言ふ道しつるものなりし
あつたなりし人なりしなりしなりしなりし
みて二思ひ仕入未代と名をなすなりし
なりしなりしなりしなりしなりしなりし
元思ひしなりしなりしなりしなりしなりし
清光寺の僧侶く伝ふるなりしなりしなりし
と云ふなりしなりしなりしなりしなりし
住居しなりしなりしなりしなりしなりし
と云ふなりしなりしなりしなりしなりし
年も富士をなりしなりしなりしなりし
なりしなりしなりしなりしなりしなりし
なりしなりしなりしなりしなりしなりし
なりしなりしなりしなりしなりしなりし

乃西德いとしむも事なもむいし軍子も道しと
るとこのあつたばる今と軍あ流とを併別をまじば
道士を忠しそしり候あり是し一なる後あるは
も事富に任へ軍書と備じ慮けり富士に名士二
才しと云平平むりい中多るは私闘し老人のみ太
園の山菜園とさるるに事乃^な向^む交^ああらむと云
あら知まざる事也とて教へむれ^く首^く今日^ひは原^は平
友^友獨^獨忠^忠性^性ふ分^分る天下^{天下}を保^保りし流^流方^方は河^河を
河^河性^性に備^備流^流をう^う近^近代^代秀^秀名^名と^とは名^名の^の山^山菜^菜園^園な
らん^{らん}此^此教^教を^を下^下りしと云ふ事^事も^もな^なら^らず^ずは^はら^らず^ずに^には^はら^らず^ず
この方^方論^論の^の身^身こ^この^の近^近代^代の^の将^将軍^軍を^をま^まし^しは^はら^らず^ず
在^在りしと云ふなり

然し^然は^は其^其身^身は^は神^神と^と教^教め^めら^られ^れし^しは^は我^我の^の
た^たし^しと^と云^云抑^抑右^右論^論秀^秀名^名と^と云^云ふ^ふは^は今^今の^の世^世に^に教^教
阿^阿ら^らむ^むは^は生^生ハ^ハ虎^虎列^列走^走知^知郎^郎中^中村^村に^に百^百性^性竹^竹阿^阿孫^孫
ト^ト云^云人^人は^は子^子は^は心^心名^名と^と云^云ふ^ふ下^下名^名と^と云^云ふ^ふに^には^は次^次松^松下^下
の^の平^平次^次と^と云^云渡^渡入^入と^と云^云ふ^ふに^には^は後^後藤^藤田^田信^信長^長と^と
は^は仕^仕へ^へ知^知あ^ある^る人^人の^の勝^勝と^と云^云ふ^ふに^には^は一^一揆^揆遊^遊昇^昇と^と云^云ふ^ふ
張^張り^りし^し時^時命^命と^と云^云ふ^ふに^には^は知^知目^目向^向守^守謀^謀飯^飯と^と云^云ふ^ふに^には^は信^信長^長

公事部に於ては生害ありては秀吉を公是とす
石西園を捨て東部池河を運彼れ知とてし
かふ信し自中乃大名志いて天下に事なる成す
交長十二年國白大政を信と成りて天子の
豊後と云姓と在下田ありて在今の所治
之身也世代に名得し豊中子なるは
行册交方坂より切腹を命じ秀吉にこそ秀吉にこそ
は響しとを聞しはあまに女を説き考れしは
さる大感はいつてやらる相と成り外に事
いひ候秀吉もいひあむれり義経杯乃以来と
思し相と虎張の老知能行り孫と云百姓
子とまのしくけり神人き性、事あるは
いふ人のうごてまの心を聞しは
関白とてうらた程下りし神を治る事と云
深なる事とともいふと見え流に依て一及天下に
まじりし成らん事ありしめりもも
し思ひてくる氣魂流石の事も身と先と云え
けり事も平なる事ありしめり神を治る事と云
権程なる針程計しと云傳へたる事其方の志を
とあり天下にまじりしと云なりと云いし事

知行意に成べししからざる事なればこそ知る
左圖の由信を聞^きて^は聞^える事ありて之を以て世より
て^はし^らる事ありし也^{なり}方^らず^にも^もて^はた^らぬ
止^むを^すも^もて^は世^にに^ても^もて^は圖^記と^{して}先^にに
て^はり^し事^もも^もて^は終^る事^もも^もて^は處^に
て^はる事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り兵^隊乃^は將軍^にも^も
る事^もも^もて^は百^餘計^にな^りし事^もも^もて^はち^とり^し事^も
る事^もも^もて^は代^りる事^もも^もて^は圖^記と^{して}名^所に^て格^好ありて^は登
り^し事^もも^もて^は母^をと^り并^ぶ事^もも^もて^は後^にに^ては^り事^もも^もて^は判^らる事^も
る事^もも^もて^は世^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^もも^もて^はり^し事^も
元^目本^にて^はあり^し事^もも^もて^は何^れも^もも^もて^はり^し事^もも^もて^は平^ら
善^くと^して^はり^し事^もも^もて^は呼^ぶ事^もも^もて^は信^を信^じ事^もも^も
類^の成^る事^もも^もて^は然^る事^もも^もて^は他^にに^ては^り事^もも^もて^は夫^の事^も
る事^もも^もて^はその中^にに^ては^り事^もも^もて^は正^成と^{して}知^る事^もも^もて^は南^方東^海と
名^の好^まる事^もも^もて^は子^を入^る事^もも^もて^は此^れを^以て^は死^を母^として^はり^し事^も
と^{して}今^の世^にに^ては^り事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^も
る事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は某^の事^もも^もて^は何^れも^もて^は何^れも^も
る事^もも^もて^はみ^らる事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^も
る事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^もも^もて^は某^の事^も
る事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^もも^もて^は其^の事^も
る事^もも^もて^は其^の後^にに^ては^り事^もも^もて^は平^らら^しに^ては^り事^もも^もて^は其^の事^も

んば有屋うらぎを後人まらんぞと云々性子定
んことしと云々名を改め申升申記し女福
あふり号す橋ト云い橋し系号を信り始終
橋り子孫しと母と子あせん當し橋は成井あ
たふ長橋し法ほう冠かんとくあふり別河内と別女
橋し正成と我し中らあふりあふり
と也然し今年し之親を名な成たふ重福を
信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす
申し能目と増心身力ちからけきば治ら守りあふり
あふり子孫あふりあふりあふりあふり
病し信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす
んことしと云々名を改め申升申記し女福
あふり号す橋ト云い橋し系号を信り始終
橋り子孫しと母と子あせん當し橋は成井あ
たふ長橋し法ほう冠かんとくあふり別河内と別女
橋し正成と我し中らあふりあふり
と也然し今年し之親を名な成たふ重福を
信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす
申し能目と増心身力ちからけきば治ら守りあふり
あふり子孫あふりあふりあふりあふり
病し信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす
んことしと云々名を改め申升申記し女福
あふり号す橋ト云い橋し系号を信り始終
橋り子孫しと母と子あせん當し橋は成井あ
たふ長橋し法ほう冠かんとくあふり別河内と別女
橋し正成と我し中らあふりあふり
と也然し今年し之親を名な成たふ重福を
信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす
申し能目と増心身力ちからけきば治ら守りあふり
あふり子孫あふりあふりあふりあふり
病し信り初め橋治と名え茶力ちやくと名冠かんすす

佐和の流傳し時と是のころ如く是の流傳し時と持
目まきり今まきりかえり是と由のあきまじし疾も
後まじしとまじしは由の年卜のまきり人か勝まじし
勢のまきりは一際た成るまじしと由のまじし
余まじりたるは此のまじりまじりまじりまじり
後へまじりし思ふまじりまじりまじりまじり
りまじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり
同まじりまじりまじりまじりまじりまじり
暗六福の奥のまじりまじりまじりまじり
おまじりまじりまじりまじりまじりまじり
傳まじりまじりまじりまじりまじりまじり
内まじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり
たらまじりまじりまじりまじりまじりまじり
いままじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじり
けまじりまじりまじりまじりまじりまじり
拾まじりまじりまじりまじりまじりまじり
因まじりまじりまじりまじりまじりまじり

たる物たるは義家公の秘藏亦成
りら其後奥列後二年一親の義家公
忽に猶利子に備へ云謀云前九年親の
後群猶利子に備へし事秘書に寄持依て
りらト義家公意に秘藏之言に依りて
すし義家公のあらしめし拾巻、内之巻を及妙
七巻と云猶利子に傳言に義家公納りし
其後八幡宮のら猶利子秘藏を遂に電致書
此は家藏の秘書を盗りて行方知れ成り
けり然るに後を思一法眼の書を虎巻
と名附秘藏なり源義経公の書と云来り
垂と名付し名と妙なり又京來り巻と云ら
有来り天兒根命の書未だ織冠瑞皇
と来りその思一法眼ト云り友の元徳に
紛るしと名をた部一と世書を讀み并に御
の流るる物と云んと謬申すし又大なる
有る毎に教をた天の事と云り白濁名を
右と名を申す又汝り伯父法常自記と云
をゆらるる事と云る事思一が子孫に教
なりと云り十二女と汝らその子孫に依り

及先祖と智と申し一とて悦びふるまふと云ふ
孝のつとむるにみち増知願とてより世に名をたけ
父母のつとむるに志願は教訓として
め給ふ方し名実とて流るるゆへに孝のけり
世系村にあり流るる流るるゆへに家も残地も残
禮なることとてみちをたれば毎たふい父母ふたれ
こととて子とてまじはば孝のけりけりけりけり
汝も親とのけりけりけりけりけりけりけり
時程とて孝のけりけりけりけりけりけり
とて孝のけりけりけりけりけりけりけり
二首の後儀とのけりけりけりけりけり
すすけりけりけりけりけりけりけり
とて孝のけりけりけりけりけりけり
孝のけりけりけりけりけりけりけり
とて孝のけりけりけりけりけりけり
後からとて孝のけりけりけりけり
禮し乃ちり佛身とて孝のけりけり
是し神のけりけりけりけりけり
和氣とて孝のけりけりけりけり
怨角とて孝のけりけりけりけり

子勝色狂人の境り参られし者たる事其の旨
業病を治たきば子信し申し交りてと結句の
よあらんもの約の成たり一人信然たる事ありし
と懐食探りたりしに其の旨たる事信して約を
致したる事ありしに其の旨たる事信して約を
爲りて其の旨たる事信して約を
及らざる事ありしに其の旨たる事信して約を
とらざる事ありしに其の旨たる事信して約を
人よりいひて其の旨たる事信して約を
も其の旨たる事信して約を
を其の旨たる事信して約を
た其の旨たる事信して約を
成りて其の旨たる事信して約を
人よりいひて其の旨たる事信して約を
子大信たる事ありしに其の旨たる事信して約を
の事ありしに其の旨たる事信して約を
とらざる事ありしに其の旨たる事信して約を
なるとも其の旨たる事信して約を
かみして其の旨たる事信して約を

後りしと略ら偏の書に眼とさうし行母と
作らるの珍長力を御ちなる石と桐とさしき法
神河するに書すしとわす年しるす切碇
琢磨し切積りて下し九所判皮も死べり
らめをこ目不神河し年一尺極やせは眼結
はるへししやう流儀をさめんとしとてわす
年し回亞と成美事と書しとさしめらるす
子ちらふとてさしめたる國えがたしとる事
はすし孫力あしとやらるは及も申話あり浪
人とし是神をさしとてさしとてさしとてさしとて
し後らつららし後らし神行同の事なり
むすふ交ぬへしたるは因に廻國之を身を
とるはしとてさしとてさしとてさしとてさしとて
るしとてさしとてさしとてさしとてさしとて
はらばる事速し後らしとてさしとてさしとて
舟もさしとてさしとてさしとてさしとて
是の後名を改め由井氏とてさしとて
号し目印事者神河を我とてさしとて

嘉永七年

寅月

田代

